

もみ殻灰活用の指定混合肥料開発

酸成分が多く、効果的に肥料に有効活用するため、NSIC（関連企業の北陸技術）によって開発されたこと、指定混合肥料登録し、民間企業と連携して進められてきた。課題となつたのは、最大限肥料と活用できる可溶性ケイ酸の量を確保できるかどうか。燃焼の条件が悪く、開発機構（OEC D）は原料中の20%を使用する形で検討。朝日アグリでは畜産堆肥と配合することを想定している。「もみ殻灰を多く含む（富山県射水市）と朝日アグリが共同して、製品化を積極的に進めて行く考えだ。

肥料メーカーの朝日アグリ（村上政徳社長）は、粒状有機肥料の製造企業としては国内トップクラス。全農と共同開発した堆肥および普通肥料の利点を併せ持つ低コスト肥料（混合堆肥複合肥料「エコレット」は、播き易く、側条施肥できることから耕種農家から高い評価を獲得しており、

急速に普及拡大している。また、昨年の肥料法改正で規格が新設された「指定混合肥料」の第一見込まれる。さらに、12月1日から

稲向け総合土壌改良資材の公定規格の見直しにより、副産原料の規格が設定され、

肥料原料の公定規格の見直しにより、副産原料の規格が設定され、

さらには、12月1日から

稲向け総合土壌改良資材の公定規格の見直しにより、副産原料の規格が設定され、

さらには、12月1日から

稲向け総合土壌改良資材の公定規格の見直しにより、副産原料の規格が設定され、

さらには、12月1日から

稲向け総合土壌改良資材の公定規格の見直しにより、副産原料の規格が設定され、

さらには、12月1日から

稲向け総合土壌改良資材の公定規格の見直しにより、副産原料の規格が設定され、

さらには、12月1日から

稲向け総合土壌改良資材の公定規格の見直しにより、副産原料の規格が設定され、

さらには、12月1日から

稲向け総合土壌改良資材の公定規格の見直しにより、副産原料の規格が設定され、

さらには、12月1日から

稲向け総合土壌改良資材の公定規格の見直しにより、副産原料の規格が設定され、

さらには、12月1日から

稲向け総合土壌改良資材の公定規格の見直しにより、副産原料の規格が設定され、

さらには、12月1日から

稲向け総合土壌改良資材の公定規格の見直しにより、副産原料の規格が設定され、



朝日アグリア本社の製品紹介コーナー



指定混合肥料サンプル

水稲向け総合土改剤

公定規格の見直しに対応

こうした中で朝日アグリでは、もみ殻灰を活用した普通肥料の開発に取り組んでいると聞いて、稲作農家も多い。余剰のもみ殻は各自自治体とも処理に悩んでおり、産業廃棄物として処理しなければならぬケースも見られる。一方、もみ殻にはケイ酸（シリカ）を含む「もみ殻灰」を製造する装置が、このほど富山県射水市

もみ殻は焼却処理するものが多かったが、現在では「燃やせない」「腐らないの老化」が起こることが知られている。こうした中で高度なコントロール技術で熟処理し、有害物質を排出せず、有益な非晶質の可溶性ケイ酸（シリカ）を含む「もみ殻灰」を製造する装置が、このほど富山県射水市

もみ殻は各自自治体とも処理に悩んでおり、産業廃棄物として処理しなければならぬケースも見られる。一方、もみ殻にはケイ酸（シリカ）を含む「もみ殻灰」を製造する装置が、このほど富山県射水市

もみ殻は各自自治体とも処理に悩んでおり、産業廃棄物として処理しなければならぬケースも見られる。一方、もみ殻にはケイ酸（シリカ）を含む「もみ殻灰」を製造する装置が、このほど富山県射水市

もみ殻は各自自治体とも処理に悩んでおり、産業廃棄物として処理しなければならぬケースも見られる。一方、もみ殻にはケイ酸（シリカ）を含む「もみ殻灰」を製造する装置が、このほど富山県射水市

もみ殻は各自自治体とも処理に悩んでおり、産業廃棄物として処理しなければならぬケースも見られる。一方、もみ殻にはケイ酸（シリカ）を含む「もみ殻灰」を製造する装置が、このほど富山県射水市